

井原市教育委員会 2月定例会会議録【公開用】

1. 招 集 平成29年2月10日(金)
2. 開 会 平成29年2月17日(金) 13時30分
3. 閉 会 平成29年2月17日(金) 16時25分
4. 会議の場所 403会議室
5. 出席又は欠席した委員
出席委員 教 育 長 片 山 正 樹
教育長職務代理 藤 井 秀 彦
委 員 奥 田 隆 夫
委 員 佐 藤 和 代
委 員 西 田 友 美
欠席委員 なし
6. 会議に出席した職員
大舌教育次長 倉田学校教育課長 唐木生涯学習課長 藤井文化課長
宮スポーツ課長 綾仁美星天文台長 小出図書館長
藤代学校給食センター所長 岡崎市立高等学校事務長 一安教育総務課長補佐
7. 教育長が告示した議題
附議事項
【報 告】
報告第 1 号 大江公民館運営審議会委員の委嘱について
【協 議】
平成29年度 教育行政重点施策について
平成28年度 卒業式について
8. 傍聴者 なし
9. 議 事
(1) 開 会
・片山教育長が開会を宣言
ただ今から2月の定例会を開催いたします。
委員のみなさまには足もとの悪い中、ご出席をいただきありがとうございます。今月はインフルエンザが小学校中学校で流行っておりましたが、今週は中学校1校だけとなり、大分収束したのではないかと思います。
さて、1月29日の星の郷ふれあい健康マラソン大会では、委員のみなさんに大変ご心配をお掛けしました。この件につきましては後ほど報告があるかと思います。3月5日には全国健康マラソン井原大会がございますので、それに向けて万全の態勢をしてい

きたいと思っているところでございます。

諸行事等ございましたが、年度末に向けて充実した教育行政を進めてまいりたいと思っております。まとめの時期ですが、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

それでは次第に沿って議事を進めてまいります。

(2) 前回会議録の承認・公開について

【片山教育長】前回会議録の承認、公開について事務局から説明をお願いします。

【一安課長補佐】前回12月定例会の会議録につきましては、既にご確認をいただいております。本会議終了後にご署名をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

なお、附議事項のうち、議案第31号は教育行政の公正又は円滑な運営に著しい支障を生ずるおそれがあるため、また、議案第33号は人事案件であるため、非公開としております。

【片山教育長】事務局から報告のあったとおり承認することとしてよろしいか。

— 全会一致で承認 —

【片山教育長】では、そのようにお願ひします。

(3) 教育長の報告事項

【片山教育長】私の方から資料を1枚用意しておりますのでご覧ください。

— 資料により、コラム「天才児の脳を活性化させる共通点」、
まなびフェスタ in 井原、きょう育ネットワーク懇談会、ふれあいセンターまつり、
マラソン大会の反省、都市教育長会視察研修について説明 —

(4) 議 事

附議事項

【報 告】

□報告第 1 号 大江公民館運営審議会委員の委嘱について

— 教育委員会会議規則第15条第1項第4号の規定により非公開 —

— 全会一致で承認 —

【協 議】

□平成29年度 教育行政重点施策について

【片山教育長】続きまして、協議事項に移ります。

まず、平成29年度教育行政重点施策についてを議題とします。事務局より説明をお願ひします。

【大舌教育次長】 それでは、平成29年度教育行政重点施策についてであります。来年度執行する事務事業のうち、重点として取り組む事業をとりまとめるものであります。今回の定例会では、内容について協議を行い、来月の定例会で議案として提出し、承認を受けることとなります。承認を受けた後、新年度には教育委員会委員、事務局職員、各学校、関係団体に配布し、施策の情報共有を図るものです。また、第三者評価委員会で点検・評価する事務事業の対象となるものです。

このあと各担当から体系ごとに重点施策の説明をさせていただきます。説明は体系ごとに区切って行い、委員さんからのご意見も体系ごとにいただければと考えております。

【一安課長補佐】 それでは、基本方針、施策の体系とビジョンから説明をいたします。

— 「基本方針」、「施策の体系とビジョン」を説明 —

なお、本日は付けていませんが、議案として作成する際には、最後に参考として、教育関係予算の概要と児童生徒数の一覧表を見込ではあります。添付します。

【倉田学校教育課長】 続きまして、『生きる力を育む学校づくり』を説明いたします。

— 「生きる力」を育む学校づくり」を説明 —

【片山教育長】 ただいま説明のありました内容に対するご質問はありますか。

【奥田委員】 「Hyper QU」についてですが、今実施しているQUとどこがどう違うのでしょうか。

【倉田学校教育課長】 今のQU調査では二つの軸で子どもたちを見ています。なれあい型になっていないかという視点と管理型になっていないかという視点とでグルーピングを行って、その学級の状態を見ています。それに集団という軸をもう一つ増やして三つの視点で見ていくというものです。

【奥田委員】 より関係性を見て取れるようにということでしょうか。経費も少し違ってくるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】 より精度を上げて見ていくということになります。経費も少し多く掛かります。

【奥田委員】 調査の処理は業者がしてくれるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】 処理は業者に任せます。ある程度の分析はしてくれますが、最終的には集団を見ていくだけではなく、個も見なければなりませんので、どの子がどの状態にいるかというところまで先生方には見ていただいて分析をしていただいております。この子にはこういう支援が必要だということまで見ていただいております。

【奥田委員】 結局、この調査でいじめとか不登校とかを未然に防止するための一つの手だてとして活用していくという面もあるのでしょうか。そこが大きな狙いだと考えればいいですね。

【倉田学校教育課長】 そのとおりです。

【藤井職務代理】「子どもと向き合う時間を創出するための研修」とありますが、具体的にはどのようなものなのでしょうか。

【倉田学校教育課長】まだ具体的には詰められていないのですが、先生方の働き方改革をしていかなければいけないなと思っています。ただ時間を長くにとって仕事から帰る時間が遅くなっているところもありますし、実際子どもたちと向き合う時間が取りにくくなっているところもあります。業務の見直しや重点化をしていくような研修になるかと思います。

【藤井職務代理】やはりやり方というか考え方を変えれば、長く学校にいらなくてもいろいろな業務がスムーズに行えるということはあるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】県教委から様々な資料も届いておりますので、それらを活用しながら、先生方とどのような働き方ができるのか考えていきたいと思っています。

【藤井職務代理】今までどおりのやり方では、なかなか変えられるものも変えられないということもあるでしょう。発想が変われば働く時間が短くなるということもあるかもしれませんね。

【倉田学校教育課長】しっかり研修をしていきたいと思っています。

【西田委員】「岡山型学習指導のスタンダードの徹底」とありますが、具体的にはどのようなものなのでしょうか。

【倉田学校教育課長】まず、授業の中では必ずめあてを設定して、話し合う場面を作って、そしてまとめをして振り返るという授業をしていくパターンをきちんと先生方がしていきましょうということで、県から出されているものです。チェックリストもあり、それでチェックしながら、自分独自の授業スタイルだけではなく、やはりしなければいけないことはきちんとやってみましょうというものです。

【西田委員】授業の流れと言いますか、そういうやり方があるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】冊子がありますので、また見ていただければと思います。

【西田委員】それでどの先生も同じような形で授業を進めるということなのでしょうか。

【倉田学校教育課長】特に新採用の若い先生方にきちんと身につけていただくと一生のものになるので、指導をしているところです。

【西田委員】参観日に行った時に、上の子の時はそれぞれの先生によって板書が違っていますが、最近どの先生も同じ形で板書されているなど思ったのですが、そういうことなのでしょうか。

【倉田学校教育課長】はい。めあてをきちんと持って授業を進めるということや黒板の使い方なども例示をされているので、どの先生もほとんど同じ形に今なっていると思います。

【奥田委員】このスタンダードは、県のひな形をもとにして、各学校で作っているのですよね。

【倉田学校教育課長】各学校でまちまちだったものを逆にまとめたという形で、落とさないように漏れなくというところをめざしています。

【奥田委員】今話があったように、板書計画の中でめあてがあって、最後にきちんとまとめができているという形は、学校訪問をしていて先生方はかなり意識的に考えを持って授業をされているという印象を受けました。これがどんどん徹底していけば、学力向上に繋がると思います。

【奥田委員】保幼小の関係ですが、連携と接続と両方書いてありますが、もう接続の方にくっつと足を踏み入れてはどうでしょうか。昨年度は連携ということで事業を掲げていました。これからどんどん連絡調整しながら、実態はどんどん接続の方向へ、また、より強い結びつきの方向へ行くという形で、来年度方向性を打ち出してはどうでしょうか。

【倉田学校教育課長】実際、先日保幼小の会議を持ったのですが、その会議名は保幼小接続会議としております。

【奥田委員】接続カリキュラムという名称も接続の方向へ移行しています。

【倉田学校教育課長】では、保幼小接続事業へ修正したいと思います。

【奥田委員】小規模の幼稚園では、来年度かなり園児の人数が減ってくるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】減ってはいはいますが、入園者はおりますので、今の13園で継続できると考えております。

【西田委員】「学校給食における食物アレルギーへの対応」とありますが、今までの取り組みに加えて新たな取り組みがあるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】対応マニュアルを作成して、対応していきたいと考えております。いろいろなアレルギーの子どもがおりますし、学校給食に限らず対応していかなければいけないと思っており、まずマニュアル作りをしたいと思っております。

【奥田委員】「英語の教科化に対応した研修」というのは、これから大きな課題となってくると思います。新しい学習指導要領も改訂案が発表されて、英語を小学校で教科として、5・6年に入れていくということになれば、カリキュラムとして1コマ増えるということになります。現在の小学校の時間割を見ても、30コマあるうち29コマが埋まっていますよね。もう1コマ増えることになれば、6時間が5日間続くという形になるか、弾力的な運用で、15分授業を3回して45分で1回にするか学校で考えていけばよいとも書いてあったのですが、この辺り学校としても今でさえ一杯一杯でやっているところをこういう形で英語という新しい教科を教えるということは教員にとって、今までやっていないことを今後やる訳ですから、どのように英語を教えていったらよいのかということ、読むことや書くことを研修されると思いますが、大変な研修になると思います。段階をおって研修されると思いますが、20年度の導入に向けて見通しはどうでしょうか。

【倉田学校教育課長】いろいろな課題が見えています。先ほどありました時間を生み出す方

法、モジュールで生み出すのか、それとも詰めていくのか。また、小学校の教員の免許状というのは英語を教えるようになっておりませんでしたので、その学習をせずに免許をもらっている方がほとんどです。それでも英語を教えていかななくてはならないという課題もあると思います。指導力を付けるという課題もあると思います。そういった様々な課題に対応するために、英語の教科化に対応した研修は必ず必要になってくるということからこの度重点施策に入れさせていただきました。

【片山教育長】 20年度までの3年間で全員に研修を受けてもらう必要があると思っています。

【奥田委員】 免許というものはどうなるのでしょうか。

【倉田学校教育課長】 国や県でこれから研修が始まってくるものと思います。その研修に参加して学習し、補充をしていかなければならないことだと思っています。

【佐藤委員】 小学校に英語の専科の先生は来られることはないのでしょうか。例えば、中学校の英語の先生が小学校を掛け持ちするとかという体制にはならないのでしょうか。

【倉田学校教育課長】 今のところそういったことは聞いておりませんが、最近の教員養成課程では英語が主免許となっている小学校教員もおりますので、そういった養成が増えれば助かるのかなと思います。

【片山教育長】 これから教員になる先生は教科教育で英語を習得します。

【奥田委員】 原則は担任が指導する訳ですよ。

【倉田学校教育課長】 そういうことになります。そして教科なので評価もすることになります。

【片山教育長】 今ALTは6名ですが、これが6名でよいのかという議論も出てくると思います。

【藤井職務代理】 ALTは一学年で週に一時間くらいは指導されているのでしょうか。

【倉田学校教育課長】 週に一回は授業を受けられるようになっています。

【藤井職務代理】 6年生を卒業する時点で子どもたちはどの程度授業を理解しているのでしょうか。話すとか。表現するとか。

【倉田学校教育課長】 現在は外国語活動という形で、5・6年生は授業を受けています。教科ではないので評価をすることもありません。英語に親しむというものです。

【藤井職務代理】 話すとか、聞くとか、そういったレベルの判断は全くないからわからない部分が多い訳ですね。

【倉田学校教育課長】 ただ、中学校に行つての英語の壁というのは低くなっているのではないのかなと思っています。

【藤井職務代理】 中学校では書いたり読んだりしなければならないので、ハードルが高くなるようなことも書いてありました。日本の場合は最終的には書いたり読んだりすることが優先される部分がありますからね。

【奥田委員】うまく導入していかないと、かえって英語嫌いの子どもを作ってしまうことになります。今まででしたら聞く話すを中心にゲームをしたり遊んだりということで、英語って楽しいなというイメージがあると思いますが、今度は書きなさい読みなさいと言われて難しいというイメージを持つと中学校へ行って課題ができてしまってもいけないと思います。できるだけ楽しい雰囲気の中で読み書きも一緒にできて、スムーズに中学校へ上がっていくという形にしていかなければいけないから、それだけ工夫も必要だと思います。小学校の先生は大変だと思います。新しいことを興味を持って子どもたちにいかに教えるかということは大きな課題になってくると思います。その辺りの研修の仕方がポイントになってくると思います。

【西田委員】「小規模校学習支援活動」というのは、この前行かせていただいた青野小、野上小と西江原小学校の合同授業のような形で実施されるということでしょうか。

【倉田学校教育課長】今はこうゆう形ですが、どういう発展をこれからしていくかというところは検討していかなければならないと思います。まずはこの形で実施したいと思います。いかがでしたでしょうか。

【西田委員】すごく緊張していたみたいですが、3日間行かせていただいて、とても楽しかったと言っておりました。みんな話しかけてくれてとても優しくかったです。子どもにはとてもよい経験をさせてもらったと思います。中学校への大事なステップになったと思いますので続けてもらいたいです。

【倉田学校教育課長】中学校へ行って初めて緊張感を味わうのではなく、事前にこうした活動でクリアしておいて、スムーズに中学校へ入っていただけるとありがたいと思っております。

【藤井職務代理】体力づくりの関係で「チャレンジランキングへの参加」とありますが、どんなことをするのでしょうか。

【倉田学校教育課長】これは種目が様々ありまして、例えば8の字飛びで時間内に何回飛べたかといったものを県へ報告して、県が順位付けして、表彰してくれるというものです。それを励みにクラスでまとまって一つの種目に取り組もうとするものです。

【藤井職務代理】クラス単位で実施するのでしょうか。

【倉田学校教育課長】そのとおりです。

【奥田委員】登校支援員の配置事業は県の事業ですね。井原市では5人配置されていますが、県知事が、有効性があるということで、県下で100人を120人に増員していこうと新聞に出ていました。県も力を入れて不登校を減らしていこうと考えていますが、増員となった20人の配置はまだ決まっていないのですか。

【倉田学校教育課長】現段階では分かっていませんが、話があれば、ぜひ手を挙げていきたいと考えております。

【奥田委員】少しでも未然に防ぐことができればということで、こういった事業がされてい

ると思いますので、できるだけ学校としても欲しい人材だと思います。休み始めておかしいと思っても担任は授業を放っておいて家庭訪問はできませんから。すぐ動けるような人材が学校にいてくれれば、家庭訪問をしてもらうとかいろいろな対応ができると思います。とにかく未然防止が一番だと思います。不登校になった子どもを学校に戻すのはものすごいエネルギーが必要です。井原市としても今不登校の出現率が高いということが出ていますので、何とか減らしていく方向を市としても取っていかないとこのままずるずると行ってしまっただけではいけないと思います。特に新たに不登校になる子どもをいかに抑えるかということがポイントだと思います。

【片山教育長】他にはありませんでしょうか。ないようですので、次に生涯学習の関係をお願いします。

【唐木生涯学習課長】続きまして、『心豊かでたくましいひとを育てる 生涯学習のまちづくり』を説明いたします。

— 「心豊かでたくましいひとを育てる 生涯学習のまちづくり」を説明 —

【片山教育長】ただいま説明のありました内容に対するご質問はありますか。

【藤井職務代理】「施策の体系とビジョン」では、生涯学習の関係だけが他の関係と項目立てが異なり、違和感がある。他と統一感を図るのであれば、重点施策の方の表現も変わってくるのかなと思います。

【唐木生涯学習課長】生涯学習関係では、生涯学習基本計画に3本の柱があるため、他課と比べると違いがありますが、検討します。

【藤井職務代理】「第3次生涯学習基本構想・基本計画の策定」とあるが、計画期間はいつからいつまででしょうか。

【唐木生涯学習課長】第7次総合計画に合わせて10年間で、平成30年度から平成39年度までとなります。

【藤井職務代理】今諮問している教育審議会の答申と連動したものになるのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】当然審議会の答申を踏まえ、あとは第7次総合計画の方向性を踏まえたうえで新たに第3次計画を策定していく流れになろうかと思っております。

【藤井職務代理】審議会の答申が出た後に策定委員会を開催して、策定するというのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】単年度で策定することとなるため、同時進行で策定することになります。

【藤井職務代理】生涯学習と学校教育の両方に関係するのですが、放課後とか土・日曜日で子どもに関係する事業が数多くあり、非常に混乱するところがあるのですが、何とか整理できないのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】学校教育関係では放課後子ども教室とか土曜学習支援であるとか、一

方、生涯学習関係では学校支援地域本部事業の中に地域未来塾や地域人材を活用した学習支援がありますが、いずれも制度が異なっており、当然報酬単価が違うものもあります。整合性が図られないとは思っておりますが、なかなか整理ができない状況です。協力いただいている方にとっては、どれがどれかわからないものとなっているのかなと思います。

【片山教育長】 予算が付いているものですから仕方がないということもあります。

【藤井職務代理】 上から下りてくることなので、横で連携してどうこうということができないのかもしれませんが、もうちょっと整理して簡潔に解りやすくできたらいいのかなと思います。

【片山教育長】 学校支援地域本部事業では県が100%の設置を目指していましたが、新しく設置はないのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】 地域本部事業として新規はございません。放課後子ども教室は2校、大江と木之子が新規でございます。

【奥田委員】 生涯学習の面では、中高生の活躍に力を入れていますが、夢源塾のメンバー等を中心に変わってきているのではないかなと思っております。12月25日のマイプロジェクトでは、自分たちのまちづくりを自分たちで何とかしていこうと本気で考えて発表している中高生を見ていると素晴らしいなと思います。こういった人材がどんどん育っていくことで井原市の活性化、地域の活性化に繋がっていくのではないかなと思いました。夢源塾では今、中学生が18人、高校生が1人とちょっと少ないので、その辺りの繋がりがなかなか難しいとは思いますが、中学生は卒業してもまた関わりを持って後輩たちの面倒を見ていくという形で繋がりがどんどんできてくると自分たちの住んでいる地域を何とか良くしていきたいという素朴な思いから具体的な方向へという形で入っていけば本当に小学校時代からの繋がりにもなると思うので、系統的に進めていただけるとありがたいなと思います。大分手応えがあるのではないのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】 私もその場におりましたが、我々の時代では到底考えられないようなことだと思いました。そういう中学生の話を聞けば大人が感化されるという面もあります。中学生は部活等で一堂に会する機会がなかなかできないので、そこは工夫しながら進めていきたいと思っております。当初この夢源塾の活動は高校生を中心にやっていたのですが、なかなか後に繋がらなかったということから中学生まで幅を広げたということで繋がりをを持たせるために組み直しをしています。今後これが各地域の公民館活動へ繋がっていくことが最終の目標となってくるのではと思っております。

【奥田委員】 その辺は美星が進んでいますよね。良いお手本になるのではないのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】 美星では前から小中学生が中心となってイベントを企画しています。美星の子どもは夢源塾に入ってきてすぐには馴染まれます。すぐ意見を出したり、リーダー的に動いてくれたりするところがあります。

【藤井職務代理】夢源塾は、来年高校生が増えるという見込みはあるのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】今年中学校を卒業するメンバーもおりますので、そういった子どもたちを繋いでいくということへ重点を置いていきたいと思います。

【藤井職務代理】2月3日に県の教育問題懇談会へ出席したのですが、県の要望で夢源塾の活動を紹介させていただきました。その中で、夢源塾へは学校から離れて参加して、その参加した子どもたちが学校へ帰ってそのことをみんなに話して広めているのかといった質問がありましたが、そのようなことはあるのでしょうか。

【唐木生涯学習課長】全中学校区から参加してもらっていますが、美星や芳井の子どもが多い状況です。今回は特に木之子中学校の子どもが中心となってアクティブで発表してくれたので、その時は木之子の中学校区の生徒を対象に夢源塾の活動に関するアンケートを自分たちでしてくれたということもあるので、そういったことが続けば、入ってくる子どもも増えてくるのではないのかなと思います。

【藤井職務代理】夢源塾に参加するような問題意識を持った子どもが学校に帰って、問題提起をしたり、意識を広めていたり、それをフィードバックするような仕組みとかがあればもっと充実するのではないかという県の教育委員からの発言もありましたので、その辺りも含めて活動の充実をお願いします。

【片山教育長】他にはありませんでしょうか。ないようですので、ここでしばらく休憩します。

— 休憩 —

【片山教育長】それでは再開します。次にスポーツの関係をお願いします。

【宮スポーツ課長】続きまして、『豊かな感性を育むまちづくり』を説明いたします。

— 「豊かな感性を育むまちづくり」を説明 —

【片山教育長】ただいま説明のありました内容に対するご質問はありますか。

【奥田委員】「トップアスリートの派遣」とありますが、どのレベルの方が来られるのでしょうか。

【宮スポーツ課長】県の体育協会へ登録しているチームとなります。一つはプロスポーツということと、あとは全国でもトップクラスの選手ということになります。例えば、シーガルズやファジアーノ、湯郷ベル、シャルム、環太平洋大学、ソフトボールでは平野金属などです。

【藤井職務代理】「全市的行事としての取り組み」で、マラソン大会など出場者数は分かるのですが、新体操では観客はどうなののでしょうか。

【宮スポーツ課長】新体操では毎年12月に新体操フェスティバルを開催していますが、今

年度は、長年呼びたいと思っていた青森大学に来ていただき、さすがにその効果もあって1,500人ぐらいの方に観ていただきました。昨年度が約1,300人でした。市内だけでなく市外や県外の方もいらっしゃるの、かなり浸透してきたのかなと思います。

【藤井職務代理】最近シルク・ドゥ・ソレイユであるとか、新体操の出身の方が入っているとか、リオのオリンピックの閉会式で新体操の演技があったりして、ちよくちよく新体操の名前を聞くようになりましたので、そういうことを足掛かりにしてもうちょっと人気が出てくればうれしいことです。

【片山教育長】ジュニアの育成でゴルフはないのでしょうか。

【宮スポーツ課長】生き生きクラブでは、ゴルフの育成事業が県の事業にあるのですが、これは必要な備品を揃える事業で、これまでもいろいろなものを整備してきました。

【片山教育長】28年度もあったのでしょうか。

【宮スポーツ課長】28年度は大方の物が揃ったので、バウンドテニスのマットを買いました。生き生きクラブの関係は徐々に揃ってきています。今は市が持っているものを使っていますが、生き生きクラブとして、そういう事業を使っているいろいろな備品を揃えていこうとしています。

【片山教育長】ジュニアをしっかり育てていく方向で考えていく必要があります。

【宮スポーツ課長】トップアスリートを活用してくればいいなと思っております。今美星や芳井ではスポーツ少年団の人数が減ってきて、一団だけでは成り立たないようなところも出てきています。

【藤井職務代理】中学校の部活の関係ではないのですが、小規模校ではなかなか団体競技が維持できなくなっていて、市で市全体を対象としたクラブチーム、例えば中体連と他の団体との問題があるかもしれませんが、うまい具合に整合させてどちらの大会へも出られるようにならないものなのでしょうか。

【宮スポーツ課長】体育協会の大会の中にも中学生が参加できる大会もあります。

【片山教育長】他にはありませんでしょうか。ないようですので、次に文化の関係をお願いします。

【藤井文化課長】続きまして、『地域文化を体感できる活力あるまちづくり』を説明いたします。

— 「地域文化を体感できる活力あるまちづくり」を説明 —

【片山教育長】ただいま説明のありました内容に対するご質問はありますか。

【片山教育長】「まんが井原昔ばなし」は、ブックスタートやセカンドブックの際に持って行って売ることにはできないのでしょうか。

【藤井文化課長】今年はまなびフェスタなどのイベントに持っていくということはやってみ

たのですが、だいたい10本程度しか売れない状況です。

【片山教育長】大人の方より、子どもが小さい時の方が却って保護者の方が見せたいと思うのではないのでしょうか。

【藤井文化課長】まだ健康診断のところへ持っていくまではできていません。

【佐藤委員】「まんが井原昔ばなし」があることを知らない人が多いと思います。例えば学校で注文書を配ってもらうことはできないのでしょうか。

【藤井文化課長】できた時に一度は配っています。

【佐藤委員】DVDの話をしたら欲しいって方が結構いらっしゃいます。

【藤井文化課長】また年度初めに配ってみようと思います。

【佐藤委員】買いたい人はどこへ行ったら買えるのでしょうか。

【藤井文化課長】文化財センター、文化課、芳井生涯学習センターと美星公民館に置いています。ここで田中美術館でも販売を始めました。

【佐藤委員】今度ふるさとかるたも作られますが、これは販売されるのでしょうか。

【藤井文化課長】かるたは販売する予定ありません。各学校に数セット配って大会をしたいと考えています。30年度には大会ができればと思っています。

【片山教育長】伝統芸能のDVDはどうでしょうか。

【藤井文化課長】伝統芸能のDVDも販売は考えていません。200部作成し、学術的な保存資料として活用したいと考えております。学校とか公共施設には配付をして、視聴覚教材として使っていただくよう考えております。

【奥田委員】せっかくいい物を作っているのに、ぜひPRをお願いします。

【藤井文化課長】井原の文学は市内の本屋さんに置いてもらえることになったので、少し販売が期待できると思っています。

【奥田委員】「文化財めぐり」では、地域のいろいろな文化財を巡ることに関心のある方が、結構多くいらっしゃると思います。考古学講座や体験講座もありますし、こんな所が見てみたいということがあれば、どんどん聞いて実施すれば、結構参加者が集まるのではないかと思います。

【藤井文化課長】各地区の青少年を育てる会等でふるさと探検などを企画されていて、これには出前講座を活用していただいて、文化財センターの職員が解説に行くなどの対応も結構あります。

【奥田委員】地元でも案外見過ごしてしまうものに昔の謂われなどがあると、再発見ができると思います。

【藤井文化課長】各地区で結構取り組まれているので、出かけて行って普及啓発に努めていくという意味でここへ掲げております。

【藤井職務代理】最近はまだ歩きがブームになっています。何気ないところに新たな発見を見出すようなことがあります。

【藤井文化課長】また3月に実施しますので、ぜひご参加ください。

【西田委員】この体験講座というのは、この前開催された和綴じ本のことなのでしょう。

【藤井文化課長】そうです。他には勾玉作りなども実施しています。

【西田委員】和綴じ本に参加したのですが、やったことがなかったことでしたので楽しかったです。初めての講座だったので多かったみたいです。

【藤井文化課長】今回好評だったようですので、来年度も実施するように考えています。ちゃんと指導してくださる方がいることが分かったのでよかったです。

【片山教育長】他にはありませんでしょうか。ないようですので、次に施設と機能の整備、充実の関係をお願いします。

【一安課長補佐】続きまして、『生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり』を説明いたします。

— 「生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり」を説明 —

【片山教育長】ただいま説明のありました内容に対するご質問はありますか。

【奥田委員】幼稚園の「ポリスクール更新」というのは、どういうことなのでしょう。

【一安課長補佐】平成21年度に初めて導入しましたもので修繕ができないことで新しいものに更新するものです。

【藤井職務代理】ポリスクールとはどういうものなのでしょう。

【一安課長補佐】非常時にボタンを押したら警察に直通で通報するというものです。

【藤井職務代理】ここに挙げられているAEDは機械自体を変えるというのでしょうか。

【一安課長補佐】すべて機械の更新です。

【藤井職務代理】以前バッテリーを更新されてきましたが、この度は機械の更新となる訳ですね。

【唐木生涯学習課長】機械そのものが耐用年数に達しているということです。

【片山教育長】他にはありませんでしょうか。他にご意見等ないようですので、ご意見のあった事項については事務局に修正を一任していただき、来月の定例会へ提出することとしてよろしいでしょうか。

— 異議なし —

【片山教育長】では、そのようにいたします。

□平成28年度 卒業式について

【片山教育長】次に、平成28年度卒業式についてを議題とします。事務局より説明をお願いします。

【一安課長補佐】お配りしております資料のとおり、あらかじめ各委員さんへは依頼をして

おりますが、この予定でいかがでしょうか。

【片山教育長】各委員さんのご都合はいかがでしょう。

— 異議なし —

【片山教育長】では、そのようにお願いいたします。

以上で議事は終了しました。

(5) その他

【片山教育長】その他として、委員のみなさんから何かありましたらお願いします。

— 藤井職務代理が2月3日に開催された岡山県教育問題懇談会の概要を報告 —

【片山教育長】他にないようですので、事務局の方から何かありますか。

— 宮スポーツ課長から星の郷ふれあい健康マラソン大会参加者死亡の経緯等
について説明 —

— 各担当課長から教育委員会平成29年3月行事予定表により行事予定を説明 —

— 3月定例会を3月22日水曜日午後3時から開催することに決定 —

(6) 閉 会

【片山教育長】以上を持ちまして、2月定例会を閉会とします。委員のみなさま、本日は長時間にわたりありがとうございました。